

鈴木清順監督作品

ツイゴイネルワイゼン

産地直送——フィルム歌舞伎

カラー作品35/mmスタンダードサイズ

シネマ・プラセット1980vol.1



鈴木清順監督

生きているひとは死んでいて、
死んだひところ生きているような
むかし、
男の旁には
そこはかどない女の匂いがあった。
男にはいろ気があった。

■映画「ツイゴイネルワイゼン」サウンドトラック盤シングル33回転(サラサテの謎の声入り)800円限定発売中!

特別鑑賞券1000円(当日1300円の処) 絶賛発売中—都内各プレイガイドにて。

ロングロングラン! 10月12日まで 渋谷公園通り西武広場
シネマ・プラセット ☎(463)4857

平日	2,000	5,000	8,000
土日祝	2,000	5,000	8,000



原田 芳雄
樹木 希林

大谷 直子
山谷 初男

大楠 道代
磨 赤 兎

藤田 敏 八
木村 有 希

真喜志きさ子
玉 寄 長 政



衝撃の話題作に絶賛の反響

映画に見る「風景」の表と裏「影武者」と対照的に「風景」が抜群に生きているのが鈴木清順監督の新作「ツイゴイナーワイゼン」だ。昭和初期を舞台に男女四人が織りなすこの「極彩色ミステリー」では、たとえば河にかかったいまにも朽ち果てそうな木の橋、ほとんど列車の通らない山間の鉄道、切り通しのむこうにある古い日本家屋、といった「見捨てられた風景」がカメラで丹念に拾い上げられる。どの風景も決して美しくはない。主演の一人、大楠道代（好演）のセリフに「水蜜桃は腐りかけている時が美しい」というのがあったが、それに倣えばこの映画の「風景」は「腐りかけて美しい」。

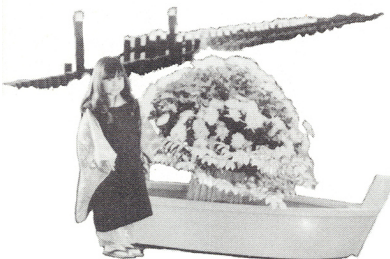
（5/17朝日新聞）

“映画は夢、生々しく必見の傑作” いっさいの出来事は登場人物の妄（もう）想、とくに青地の病身の妹（真喜志きさ子＝新人）の幻覚なのかもしれない。そう思ったとたん、しかし、この映画のあまりのなまなましさに、ぞっとする。数多くの死人、骨のイメージの反復が、血肉をそなえて生きる人間の悲しみをにじみ出し、単純に妄想・幻覚とみなしてすまずわけには、いかないのだ。いうまでもなく、映画というものは一つの夢の形である。そのことを、これほど奇々怪々かつなまなましく体現した作品は、ここ数年なかった。映画ファン必見の傑作といってい

（4/14サンケイ新聞）

衝撃とユーモアの大逆転 日本映画が、これまで余り取り組もうとしなかった領域の映画が現れた。サラサーテの肉声がはいっている「ツイゴイナーワイゼン」のSPレコードが象徴的に使われているところは内田百閒の小説がヒントだそうだが、文学の方でいえば、今昔物語から上田秋成や小泉八雲、さらに夢野久作や石川淳が描いてきたような世界に、まともに触れた映画である。

（4/14読売新聞）



ともかく妙にたのしい映画だったね。この作品は「死」がテーマには違いないんだけど、全篇を通じてもてあそばれているその「死」が実に心地よかった。いわゆる力んで主張するセリフはひとつもなくて、どのセリフも淡淡と、しかも、全篇に、その「死」の匂いが漂っていたにもかかわらず、その「死」がご大層なものにはなっていない……、いわゆるドラマの抑揚というものは意識的に避けている。全体的な印象としては「昼顔」や「突然、炎の如く」を観たときのような気分を感じたね。

長谷川和彦氏（4/28読書新聞）

最近見た映画の中から 黒沢さんの「影武者」は、よく部分部分の色彩感覚が美しいといわれているようですが、そういう意味での色彩感覚や、映像の構図のおもしろさということでは、「ツイゴイナーワイゼン」のほうが格段に上ですね。演技という点では、やはり大楠道代（安田道代）はとてよよかったし、藤田敏八もよかったと思う。大谷直子がこれほど魅力的に見える映画をばくは他に知らないし、他にも樹木希林とか、原田芳雄、山谷初男なんかが好演していましたね。ぜひもう一度見たいと思っています。

五木寛之氏（6/7日刊ゲンダイ）

スタッフ	監督	企画	脚本	撮影	照明	美術	宣伝美術	音楽	録音	編集	制作監督	助監督	装飾	記録	演出助手	撮影助手	照明助手	美術助手	小道具	車輜	制作進行	衣裳	技術	ヘアメイク	現像	スタジオ	撮影機材	照明機材	制作事務	プロデューサー																
キャスト	鈴木清順	伊東謙二	永田陽造	水塚一男	大西美津男	木村威夫	多田佳人	荒木経久	河内紀	岩田広一	神谷信武	小田知雄	山田純生	神田明良	花田良知	酒井直人	志賀孝一	藤沢順一	藤石修	鈴木豊	杉野昭伸	宇佐美州師	大塚豪彦	田村雅彦	小間豊彦	小桜繁夫	高橋徹	中島竹彦	宮下真彦	塩谷真二	星野正吾	平松成吾	富士衣裳	福島源治	福島源治	松川好伸	丸山澄江	大庭礼江	宮崎明実	東洋現像所	映広音響	フカザギ	日本照明	長尾達夫	伊藤友理子	荒戸源次郎
原田芳雄	大谷直子	真喜志きさ子 (二役)	磨 赤兎 (新人)	樹木希林	木村有希	玉寄長政	佐々木すみ江	夢村四郎	米倉ゆき	江の島るび	紅沢ひかる	渡辺忠臣	間 崇史	小田美知	中沢青六	内山信子	堀 妙子	石井まさみ	川平京子	山谷初男	相倉久人	玉川伊佐男	大楠道代	藤田敏八																						